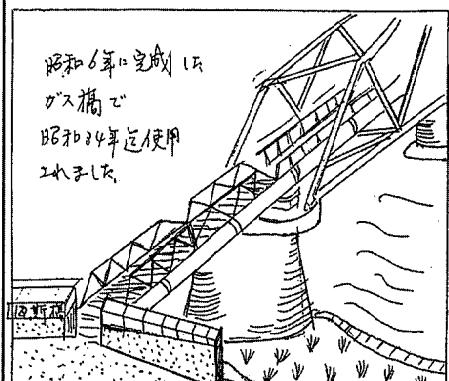


ふれあいのいろば

瓦斯橋の橋脚は12基あります
が東京側が多いので、川の方向
へ一基一基と作られました。川
の中の橋脚は2基で大型です。
間隔は60米です。河川管理事務
所の指導で本橋架替えに備えて
本格的なもので、昭和34年本橋
架替えの時、重要な役割を果た
しました。金森技師の先見の明
に敬服するばかりです。
橋脚の建設は東京側より始ま
り平間側は陸上一基でした。
資材の搬入は東京側の方が道路
事情も良く早く進み、橋脚の上
に鉄骨の姿が見えてきました。
川を跨ぐ大きな橋の組み立て
は川の中に何十本の丸太材を組
んで転馬船のクレーンでの作業
です。略図で示す様に瓦斯管を
横に真ん中に人道橋（幅員1米
20）が作られ村人の待望の橋

賛会が行なわれました。当时、上平間には消防自動車が配備（後日、この話を書き主す）されてましたので遠く六郷橋を廻つて河原に下り、出来上つた橋を洗い清めました。この心意気を味わつてください。古い高砂の故事にならつて、神官を先頭に三夫婦（市ノ坪・横山氏、古市場・瓜生氏、もう一つは判りません）が渡り初め行なわれ、ついに村人の長い間の夢が実現したのです。

ひなびた閑村でありながら大きな希望を抱いて努力に努力を重ねて、ついに実現をされた先輩の方々に心から感謝申し上げます。私は中学三年生でしたが秋の運動会の練習で式典に間に合いませんでしたが、紅白の餅を戴きました。



義と間違つた方向に変わりノモンハン事件、大東亜戦争、第二次世界大戦と私共の青春は「お国のため」の一と文字で奪い去られました。

JR西日本



ひらまの里と運営会議 ・中央は山中係長

瓦斯橋の橋脚は12基あります
が東京側が多いので、川の方向
へ一基一基と作られました。川
の中の橋脚は2基で大型です。
間隔は60米です。河川管理事務
所の指導で本橋架替えに備えて
本格的なもので、昭和34年本橋
架替えの時、重要な役割を果た
しました。金森技師の先見の明

昭和30年8月18日 町会設立総会が平間幼稚園で開催され、第二町会が発足して以来、今年で満50年を迎えることになりました。この間、多くの人々が町会の活動に協力され地域づくりに多大な貢献をされてきました。今日の活動はこれら諸先輩が築かれた基礎の上に成り立つていることは言う迄もありません。

町会では創立50周年を記念し、全町会員に対する記念品の配布、50周年記念誌の発行、

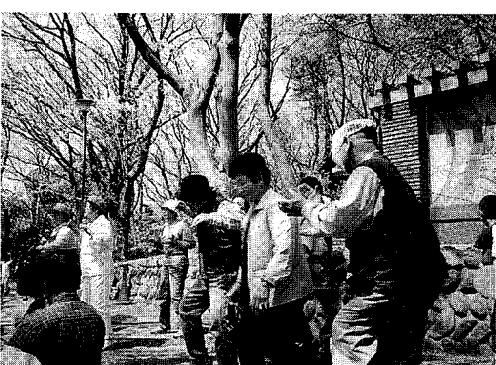
関係者を招いての記念式典等を企画しております。なお、式典等は気候条件等を配慮して、11月に行なう予定であります。町会ではこれを機会に防災対策、防犯対策、環境対策、高齢者対策、青少年対策等の課題に積極的に取り組み、子どもからお年寄りまで全ての住民が安心して暮らせる街づくりに努力していく所存であります。町会員皆様方の一層の御協力と御支援、御鞭撻をお願い申し上げます。

上平間第一町会創立
50周年を迎える 八月十八日



さくらの花を見ながら
親子ふれあい歩く会

平成17年7月1日発行
上平間第二町会
編集責任者
堤秀夫
印刷所 長谷川印刷(有)



ついに村人の夢は実現したのです。私共は此れを良き歴史をして立派な上平間第二町を作りましょう。初代の瓦斯橋は総工事費、18万円と記されています。橋は渡し舟と違つて大雨、台風や夜中でも、また六郷橋を廻る事もなく、東京が一気に近くなつた、只リヤカーで渡る時は幅員が一・二米なので、自転車の場合はそばの瓦



親子のふれあい
参加で雰囲気が
とても良く楽しい
話しておられま
した。

斯管の上を利用して持ち上げリヤカー同士の時は先ず荷物の軽い方を相手の頭越しに移し、軽くなつたりヤカーを同じ様に移して一件落着です。夜中は鉢合わせする場合がありますので、懐中電灯で大きく円を描きながら相手に知らせ渡りました。

昭和6年9月18日柳条溝における南満鉄道爆破に始まり満州事変、昭和12年7月7日

ミー・ティ・サービス等
ひらまの里と
運営会議開催

平成16年度	特別積立金会計決算
収入	前年度繰越金 7,444,112円
	定額貯金利息 84,480円
合計	7,528,592円

(注) 17年度特別積立金会計は収入支出とおり承認ありまじめ

*街角情報コーナー
いつも誰でもスタートライン
ひらまスポーツ
レクリエーションクラブの発足

私はふたりの子どもがいます。自分自身おとなになりきれず、いないまま、手探りで子育てに励んでいます。しかし、子どもはどんどん成長し、自身の世界を広げていきます。そしてその広がりは、必然的に親であります。また、子どもたちの目線を通して、世の中を知ることも出来ます。

私たちが小さかつた頃は、日の暮れるまで、安心して走り回ることの出来る広場がそこそこでありました。今の子ども達にはそれはありません。おとなの手で作った小さな箱庭で、窮屈

そうに手足を動かしているだけ

ないように見えます。それに関連

して、居心地の良い場所を見つ

けられない子ども達もいます。

しかし、どの子も大切な存在で



左から林ホーム長、茂木ケイ子さん

★思い出の「一十一」
ボランティアとの出会い
茂木 ケイ子

私がボランティア始めた動機は今から10年前の平成7年に主人が会社を定年になり、これからは何か世の中の為になることを始めたいと、二人で話をついたことが切っかけです。そして市政、だよりで福祉パル主催の「しのぶの明日」という

身障者をテーマにした映画が上

映されることを知り、二人で見

に行つて大変感動しました。そ

の時に皆さん何か役に立つこと

をしませんかと、バルの役員の

呼び掛けがあつて、5人6人の

私自身の視野の広がりにも繋がります。子どもから学ぶことが日々あります。また、子どもたちの目線を通して、世の中を知ることも出来ます。

私たちが小さかつた頃は、日の暮れるまで、安心して走り回ることの出来る広場がそこそこでありました。今の子ども達にはそれはありません。おとなの手で作った小さな箱庭で、窮屈

そうに手足を動かしているだけ

ないように見えます。それに関連

して、居心地の良い場所を見つ

けられない子ども達もいます。

しかし、どの子も大切な存在で

す。我が家が子と仲良くしてくれていて、私にとつても、そこに居て寂しいと感じる程の子どももいる。中学生になり、そろそろ付き合いの悪くなってきた我が子・・・寂しいなど感じてい

た頃、その子ども達が「おばさん、一緒に野球やろうよ」と声をかけてくれました。直ぐにと

は行きませんでしたが、しばらく

をかけてから、平間小学校の校庭

をお借りする事が出来、ひろく

い校庭で、一緒にキヤッチボールやバッティング練習をするこ

とが出来ました。学校嫌いな彼女たちも、そして私自身も運動

不足なものですから、それはど

うしても野球とはかけ離れたス

ポツになっていました。エラーの

連続で、必死にボールを追いか

けているうちに、みんな笑いが

こみ上げてきて、清々しい気持

ちで一日を終える事が出来まし

た。その時、ふと思いました。

ボランティアを希望する人が出

ました。ボランティアを希望する人が出

ました。ボランティアを希望する人が出